



# 「池戸 一成 後援会」会報

## しぶがきつうしん

# 渋柿通信

新年号

発行日：平成24年1月10日

発行者：池戸一成後援会事務局

各務原市蘇原柿沢町1-15

TEL：371-2749

FAX：382-1350

新年のごあいさつを申し上げます。旧年中はたいへんお世話になりました。  
本年も「がんばろう日本！」が合言葉です。

昨年、多くの犠牲を代償に、日本人は様々なことを学んだ年でした。

地域の大切さ、人とのつながり・・・そして、原発が安全でないこと・・・

今、この瞬間も、復興を目指して活動する東北地方の友人たちがいて、その方々の顔を思い浮かべると、心に熱いものが込み上げます。

今年は、「自分に何ができるのか?!」を考え、実行に移す年にしたいと思います。

池戸 一成



## やっぱり私は、脱原発派です！

これまで私たちは、とすればエネルギー、特に電力について、その供給体制に何の疑問もなく、電気料金さえ払っていれば、欲しいだけ手に入るものだと思ってきましたし、その安定的な供給も当たり前だと思っていました。

しかし、今回の東日本大震災の原発事故を機に、私たちは多くの犠牲を代償に、エネルギーのことに正面から向き合うこととなりました。電力源としての『原発』は安全でも安定でも安価でもない上加えて、この国の経済の健全な成長と地域の発展の妨げになりうるということです。

メディアを通じてよく耳にするのは、「原発がないと電気が足りなくなり、日本の産業は空洞化し、GDPが下がり、経済が沈み、豊かな生活ができなくなります。だから、原発はこれからも必要だ。」ということです。

### 「本当でしょうか・・・？」

企業の運営コストの中でエネルギーが占める割合は業種によっても異なりますが、せいぜい2～5%で、その内電気の比率は半分までいかないでしょう。仮に電気料金が10%上がったとしても総コストに与える影響は0.1%～0.2%です。そのレベルのコストアップで海外に移転する会社がどれだけあるのでしょうか？むしろ、為替の影響の方が何倍も大きく、産業の空

洞化とは様々な要因が複雑に絡み合っ起こることで、全てを電力のせいにするべきではありません。

第一、どんな商売でも、前提条件は、世の中が安全、安心であることではないでしょうか。毒マスクをし、線量計を携帯し、四六時中びくびく怯えながらの暮らしの中で、GDPとか経済成長とか何の意味があるのでしょうか。それが今、福島では現実になっているのです！安心、安全な暮らしがあつてこそその『経済』であることを肝に銘じなくてはなりません。今一度、私たちの『いのち』は何によって支えられているのかを真剣に考えなくてはならないと思います。

仮に百歩譲って原発が安全に運転できるとしましよう。しかし、最後まで残るのは使用済み核燃料の問題です。

日本以外の国では、すでに諦めて、最終的にはガラスで覆って地下深く埋めるしかないという結論になっています。認めていないのは日本だけです。そしていずれは、使用済み核燃料を、原発を作った時と同じように、どこかの地域に、お金の力で引き受けさせようというのでしょうか？

### 「地域から、脱原発に向けてできることは?!」

具体的な動きを始めます。詳細は改めてご報告いたします。

## 当市の国保会計の状況

(H22 年実績)

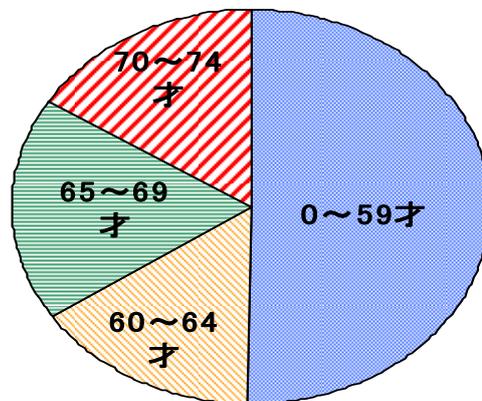
各務原市の国民健康保険(国保)の被保険者は4.1万人います。年間の『給付額』、つまり当市の国保会計で被保険者の医療費などを負担する額は約100億円です。

このうち65～74才の方の人数は1.4万人(34.5%)で、この方々の給付額は約53億円で半分以上を使います。一人当たり374,000円/年となります。

ちなみに、国保でなく後期高齢者医療保険の当市の対象者(75才以上の方)は1.4万人で、この方々の給付額も約100億円です。一人当たり715,000円/年となっています。やはり、高齢の方ほど多くの保険財源が必要になるということです。

社保や各種共済の方々は定年になり、国保に切り替えられます。つまり、定年者の受皿になっており、どうしても国保の被保険者の高齢者割合は高くなってしまいます。そして、保険料だけでは賄いきれなくなるのです。

**国保会計全体の141億円のうち、保険料で賄えているのは43億円です。残りの98億円は、社保や各種共済組合の会計や、国、県、市で負担をしています。**誰が見ても、国保財政は非常に厳しい状態にあ



国保の加入者の内訳

ります。現状では、今の世代で賄えていない状況なので、私たちの子や孫が負担することになっているのです。

当たり前のことですが、「**誰かのために使う費用は、誰かが負担しなくてははいけません。**」

しかし、それは将来の人たちが負担するものではなく、現在の我々が負担していかななくてはならないと思います。ましてや、今後もその負担は増えていくことは間違いなく、このままでは「**子どもにツケをまわし続ける**」ことになってしまいます。

現在の日本の社会保障は「高サービス低負担」で、すでに破綻しているといわれております。社会保障制度改革が話題になりはじめて久しいですが、制度改革できない政府もいけません、私たちも負担増の覚悟を決めないといけないのかもしれない。

## 東中病院で病児保育が始まります

東海中央病院では、来年度より『病児保育』を始めることになりました。

4月より小児科が再開しており、現在、常勤1名の小児科医師がいらっしゃいます。今回の病児保育はこの医師も携わり、病気のお子さん(小学3年まで)を預かるサービスをはじめるといものです。「お子さんが病気になって・・・、でも仕事が休めない・・・」という

幼いお子さんのいるお父さんお母さんの強い味方になるでしょう。

なお、来年度早々の開設に向けて、今回の補正予算で700万円の設備費補助金が上がり可決されました。



## 防衛省からの追加補助金

今回の補正予算で、防衛省より『特定防衛施設周辺整備調整交付金』の二次配分で1.1億円補助金が上がりました。

政府からの補助金の名前はとても長いです。

この交付金を使って、道路改良(6,600万)、市内7小学校運動場に照明設備(2,500万)、消防川島分

署にボート積載車(800万)など行います。

今回照明が設置されるのは、蘇原二、那加一・二、稲羽西・東、鷺沼一、各務の各小学校です。消防団の練習等に使用されますが、それ以外にも有効に利用できるといいですね。

## 本の街・・・具体的に何を？

本年度は『本の街かかみがはら』の元年でした。どのような事業が行われてきたのか見てみましょう。

まず、ハード事業として、『中央図書館のリニューアル』。かつての図書館は、知識や情報を集める場所でしたが、インターネットの普及により、図書館の役割が変わってきました。今回のリニューアルで、文化活動の発信拠点として、また、親子のふれあいの場として、生まれ変わりました。具体的には、おはなしの部屋の拡張や、美術展示スペース、リハーサルスタジオ、視聴覚ホールを整備により各種サークルなどの発表・発信がしやすくなりました。

1月14日には日本ラインうぬまの森に『森の本やさん』もオープンします。また、移動図書館『さつき号』も新しくなりました。

次に、ソフト事業として、『青空古本市』は、私も何度か足を運びましたが、結構にぎわっています。学校図書館を地域開放、よみきかせ教室、絵本ライブ、全校一斉読書など、50近くのソフト事業が行われてきました。本のソフト事業は、比較的低予算で開催できることも特徴といえるでしょう。



## 各務原の街路樹って何本？

市内の街路樹の本数ってご存知ですか？

正解は5,580本です。

このうち、4,963本が落葉樹です。つまり、各務原には落ち葉が多い・・・ということになります。

私のツイッターに他市の方から、「紅葉の季節の各務原は素敵です・・・」という声をいただいています。確かに冬ソナストリートやイチョウ通りの黄葉とその落ち葉はきれいです。各務原にとって、境川の桜に次ぐ自慢かも・・・

H17に各務原市は『緑の都市賞』(内閣総理大臣

賞)を受賞していますが、この時も街路樹の評価が高かったようです。

ただ、その付近にお住まいの方々の言い分は違います。「落ち葉の掃除は誰がやるんだ～！」「毛虫をなんとかしろ！」などという声をよくお聞きします。

でも、切ってしまうのは、「せっかくの名物になり始めた街路樹の黄葉です。もったいないな～」とも感じます。

この問題は、身近で具体的な、みなさんの声を聞いて解決すべき、大切な問題ととらえています。

## 前宮保育所が民営化

8ヶ所目の保育所民営化になります。受け入れ定数も現在の75名から85名(予定)に増え、『乳児保育』『延長保育』『一時保育』も新たに開始されるようです。

委託先は、川島東保育園さん。現状の市営から問題のない引き継ぎがなされるように、すでに昨年10月から引き継ぎ保育士が川島東保育園より出向しています。加えて、4月から半年間は、2名の市職員が見守り保育士として残ります。また、2名の前宮保育所の現保育士も、引き続き川島東保育園に雇用され残られることとなるようです。

保育所に限らず、各種施設の民営化は、市が取り組んでいる行財制改革の大きな柱のひとつとなっています。



## 空き家が増加しています

総務省の調べで、当市の空き家は H20 年で 6,000 戸になっています。全体の 11.2%・・・多いですね。空き家は放火など様々な犯罪も誘発するそうです。所有者による管理または解体・撤去が基本ですが、中には管理されことなく放置されているところも少なくないようです。

## 行事報告

### バーベキュー好評でした！（渋柿隊）

昨年同様に 10 月 16 日に木曾川扶桑緑地公園キャンプ場にて、秋のバーベキュー大会を開催しました。たいへん多くの方にお越しいただき、ありがとうございます！

カレーライス、串かつ、フランクフルト、焼きそば、綿菓子、ポップコーンなど・・・中でも気仙沼産の秋刀魚は絶品だったと大好評でした。

今年はサックスのグループ演奏も行い、新たな方々の参加もあって、和気あいあいと開催できました。



### 伊賀牛とぶどう狩りの旅



10 月 20 日に研修旅行に行ってきました。津市役所のご協力のもと『久居榊原風力発電施設』の見学では、間近でみるでっかい風車に圧倒され、『三太夫』にて伊賀牛や地鶏の昼食をとり、『赤目四十八滝』を訪れ、『垣本ぶどう園』でぶどう狩り・・・今回は少し遠いツアーで、くたびれましたが、楽しい時間を過ごすことができました。

時間の都合で、赤目四十八滝には少しの時間しかいられなかったのが残念でした。

今回お世話になったのは、食事場所、ぶどう園などの手配に友人の垣本君、風力発電見学手配で先輩の辻さん・・・周りの方々にお世話になっての企画でした。いろいろとお値打ちにしていただけましたし・・・

## ボウリング大会

- ◎ 平成 23 年 2 月 19 日（日）
- ◎ コーエンボウル（旧・交通公園）
- ◎ 会費：1,200 円（2 ゲーム・靴代込み）
- ◎ 午後 2 時 30 分スタート
- ◎ 送迎バスご希望の方、午後 1 時 50 分池戸ミシン出発。（要予約）
- ※ 定員になり次第〆切ります。お早目の申し込みをお願いします。
- ※ 会費を添えてお申し込みください。
- ※ お申し込み・お問合わせ：371-2749（後援会事務所）

